

サミット会議

第2日目

10月3日(日)

島田家

司会：益田市総務部長・中村達之

皆様、おはようございます。昨日は記念講演をはじめ、第1日目の行事に参加をいただきまして誠にありがとうございました。少し強行なスケジュールで進めさせていただいているためお疲れのこととは存じますが、只今から、第8回雪舟サミット会議を始めさせていただきます。私は、益田市総務部長の中村達之と申します。この会議の司会を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。(拍手)

会議に入ります前に、本日の日程について少し説明をさせていただきます。これから、サミット会議を10時をめぐりに進めていただきまして、その後この会場から10分程のところで開催されます「雪舟さんまつり」に参加、視察していただきます。その後、記念撮影を行いまして0時30分までには再びこの会場にお帰りいただき、昼食をとっていただきまして、第8回雪舟サミットのすべての日程を終了させていただくこととなりますが、13時10分頃になると考えていますので、よろしくお願い致します。

それでは、サミット会議を開会いたします。本日の会議は、各自治体の首長さんにより行いまして、ほかの皆様はオブザーバーとしておいでいただくということで進めて参ります。会議の進行は、慣行によりまして、開催地であります益田市長 田中八洲男が務めさせていただきます。それでは、プログラムの8ページをお開きください。よろしくお願い致します。

進行：益田市長・田中八洲男

皆さん、おはようございます。この会議の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

昨日皆様にお会いして、こうして御一緒させていただいていますと、心のふるさとを共有する旧友に久し振りに出会い、ゆったりとした、しかも豊かな時を共有している、そのような感慨に浸る思いをいたしているところであります。まさに、これまでの交流によって培われてきた友情という輪の中に入っていることを実感させていただいているところでございます。

先のサミット宣言にもございましたように、雪舟を核に互いを思いやりつつ交流を促進し情報交換を行い、互いの町を紹介しあうということは、まさに地方分権時代にふさわしい、あるいは時代を先取りしたすばらしい取組であると思う次第であります。

それでは、限られた時間ではございますが、現在または将来の施策展開、あるいは情報交換ということになるかも知れませんが、各首長さんにざっくばらんにお話をいただき

たいと思います。50音順ということにさせていただきます、大野町の三浦町長代理 後藤助役さんからお願いいたします。

大野町助役・後藤清治郎

大野町でございます。昨日は、こころ温まるご歓迎をいただきまして、大変ありがとうございました。それでは、会議の議題であります情報交換について述べさせていただきます。

大野町では、平成9年に「まちづくり基本計画」を策定し、少しずつ施策の実現に向けて取り組んでおります。

まず、町の骨格ともいえる「基盤づくり事業」として、交通体系の整備をあげています。なかでも、建設省の直轄事業として、大分市から熊本市までの中九州横断道路の整備着工であります。平成19年度を目標に、国道10号と小野町間約12kmが開通する運びとなりました。あわせて、大野インターと国道57号の取付道となるバイパス道を整備して、インター及びバイパス周辺の約10haに、個性的な新しい商業集積を中心とした、にぎわいのある街並みづくりとしての再開発を計画しており、商工会や関係団体との打合わせ構想計画も終わり、いよいよ用地取得等を進めているところであります。更に、県都大分市と大野町を30分で結ぶ県道の早期改良促進を行い、定住促進を図るために早期完成に努力しているところでもあります。

自然にやさしい美しいまちづくり事業として、まず、住環境整備事業を実施しております。全国的にも過疎化が進む中、本町も同様に高齢化が進む中、町民が健康でかつ快適な生活を営むことを重要課題とし、平成17年度を完成目標に約73haを対象に公共下水道整備を実施しており、一部平成12年度から共用開始いたします。あわせて上水道の水源確保と同時に配水管の新設、改修事業を実施しているところであります。

また、若者の定住確保のための定住促進条例を制定し、担い手や転入者や新しい就業者に対しても適用できるものとしています。

さらに、昨年からは住宅団地の造成を行いまして、まず分譲宅地28区画の販売を今月から開始しました。30日には広島から西九州地区の朝日新聞に広告いたしました。あわせて公営住宅54戸を本年度から着工し、向こう5年以内に完成させて若者や高齢者のニーズに合った温かい住環境と優しいまちづくりに着手したところであります。

次に、文化振興について報告します。昨日も若干触れさせていただきましたが、昨年開催されました国民文化祭を契機に、また、大野郡8ヶ町村が広域連合によって造った総合文化センター「エイトピアおおの」での、芸術文化に触れる機会が多くなったことも加わり、町民の関心も非常に高まっていると考えます。今年は、「県民芸術文化祭」の参加と共にこの7月から町内の3事業所をお借りして、街かどギャラリー展を開催し、町内の水墨画愛好会をはじめ文化団体の作品等を展示し、多くの人々に身近に触れていただき、大分県の目指している1人1文化の推進に努めているところです。おかげをもちまして住民の評判もよく、今後はさらに展示場所の増設と確保をしたいと思っております。

このような雪舟ゆかりの地交流に参加させていただききっかけとなりました「沈墮の滝」では、今年10月31日に、「第6回雪舟まつり」が盛大に開催されますし、町内外から本当に多くの方々が訪れる、秋の祭として定着して参りました。この交流が大きな力となって、いよいよ名実共に「沈墮の滝」が復元しまして、常時落水することになったことは、大きな成果であり喜びであります。これこそ雪舟さんが取り持つ3市3町の皆さんとの大きな力だと思えます。

来年4月23日には、両陛下をお迎えして、第51回全国植樹祭が大野町で開催されます。本町としては、この機会に雪舟水墨画展や子供たちを含めた水墨画教室を開催して、両陛下を、多くの町民の方々と一緒にお迎えする機会ができないか検討しお願いをしたところ、知事の意向も90%以上OKの様です。

以上大野町の取り組みについて、ご報告をさせていただきました。ありがとうございました。(拍手)

進行：益田市長・田中八洲男

後藤助役さん、どうもありがとうございました。それでは続きまして川崎町の小田町長さんよろしく申し上げます。

川崎町長・小田幸男

さて、昨日も申し上げましたが、21世紀に向けた川崎町の主要な施策の一つとして、「ふくしのまち川崎」をスローガンとして掲げております。

いま、お手元に差し上げている緑色の冊子が、本年6月に策定された「みんなにやさしい川崎町障害者プラン」です。障害者プラン策定推進協議会のメンバーである障害のある方や障害のある子どものお母さんたち自身が、2年間一生懸命協議され、思いの込められた計画書となっています。

障害のある町民だけでなく、誰もが安心して住むことができる町にしていくためにも、ぜひともこの実現に向けて努力していきたいと思っています。

現在、2ヶ年計画で新庁舎及びコミュニティーセンターの建設を進めていますが、この障害者プランの精神を十分に反映して、施設のバリアフリー化を考慮し、ハートビル法に基づいた設計で進めているところです。

このように、現在川崎町では高齢者や障害者の福祉施策を積極的に推進していますが、2000年4月からの「介護保険制度」導入を前にして、今後ますます「ふくしのまちづくり」に向けた取り組みを進めていかなければならないと考えています。

それからもう1部冊子とCD-ROMがありますが、これは先月9月22日に、「川崎町夢づくりまちづくり委員会」の皆さんが、「まちづくり講演会」で答申・手渡された「21世紀の川崎町～夢づくりまちづくりプラン」です。

この委員会は、2年前に一般公募で、様々な役職や肩書などは一切とりはずしてもらい、真にふるさとを愛する一町民として応募していただいた30名と、役場から10課15名の計45名で構成されていますが、この冊子とCD-ROMは、この委員会が川崎町の未

来に向けたまちづくりを積極的に進めていこうと提案していただいたプランです。

このプランの特長は、住民と行政のそれぞれの意見が盛り込まれた138件の具体的な提案と、その目標達成後の姿も予測できる関連マップが整理されており、今までにはない手法で策定されています。

障害者プラン同様、この夢づくりまちづくりプランの実現に向けた取り組みは、今後の川崎町の活性化に大きく反映されるものと考えています。

このように、私は、町民と行政が本当の意味でのパートナーシップを構築することによって、素晴らしい「住民参加のまちづくり」への道が開けるのではないかと考えています。

今後もさらに「住民と行政の協働」を重要なキーワードとして、ふるさとのまちづくりを進めていきたいと思っています。

先日、8月に「水のシンポジウム」を開催し、9月には、「まちづくり講演会」を開催しました。

このあと地元に戻りまして、10月10日の体育の日に、戸谷自然ふれあいの森で「小さな森のコンサート」を開催します。全て住民の皆さんと一緒に協議しながら進めています。

このように、多くの住民の皆さんと共に歩いていくスタンスで、今後も川崎町の人づくり・まちづくりを積極的に進めていきたいと思っています。ありがとうございました。(拍手)

進行：益田市長・田中八洲男

小田町長さんどうもありがとうございました。それでは続きまして総社市の竹内市長さんの代理岩佐助役さんよろしくお願いします。

総社市助役・岩佐信夫

昨年12月、長年の懸案であった伯備線総社駅舎の橋上化が完成しました。2本のJRに加えまして、今年の1月に開通した第3セクターの井原鉄道をもつ駅として、今後、駅前整備と併せながらターミナル機能を充実させていく必要が有ります。

今申しました井原線についてですが、今年1月11日11時11分11秒に第1号の電車が発進しました。半世紀にも渡って待望久しかった、今世紀最後の鉄道新線の開通に全国の注目をあびたところですが、橋梁部分が多く、沿線の景色もなかなかよい。最新の車両で乗り心地も快適。経営面で心配されていることもあり、今後は、沿線の市町村と協力して利用促進に努めなければならないと考えております。皆様も是非お出でいただきたいと存じます。

平成17年の岡山国体に向け、施設や体制の整備も始まっています。本市では卓球と軟式野球、そして公開競技のゲートボールを引き受けることになっていますので、新体育館の建設を中心とした総合運動公園の整備を進めています。また、体育館は今年度設計をして、2年がかりで県下でも最大級の体育館を完成させ、選手の皆さんをお迎えしたいと思っています。また、昨日は国体準備室を設置しました。温かい受け入れへ、万全の体制

を整えていきたいと考えております。

先年7月には、企業誘致対策室を設置し、企業誘致にも力を入れています。

吉備路の広域観光の拠点となる観光センターの建設を、備中国分寺五重塔の周辺に整備していきたいと考えています。まずそのために、宿泊施設、国の天然記念物のタンチョウヅルの公園等から着手していく予定です。なお、その周辺に県立博物館を誘致しようと昨年から市民運動が起きてきています。県の経済同友会から県に対して、吉備路周辺を建設候補地とする提言もなされていることから、吉備路の穏やかな景観の中にあつてこそ、現代の博物館にふさわしい姿であると考え、今後情勢をみながら誘致を推進していきたいと考えています。

雪舟さんに並んで本市の文化の源である鬼ノ城山は、7世紀頃に造られたといわれる古代の山城。城塁の全長は、約2.8km、城内の面積は30haにもおよぶ広大なものです。市と県で順次発掘調査を行っていき、その結果、現在までに東西南北の門跡などが発見され、全国の考古学ファンの注目となっています。市では「鬼城山整備委員会」を設けており、近々整備計画を策定して準備整備を行う予定で、多くの謎を秘めた鬼ノ城の全貌が少しずつ解き明かされようとしているところです。

また、今お話ししました鬼ノ城に伝わる温羅伝説をミュージカルにしようと、昨年9月に市民劇団が結成されました。来月11月27日・28日に旗揚げ公演「命・もう一つの温羅伝説」が上演されます。桃太郎伝説のルーツであると言われる温羅伝説を、我々吉備の側から見つめなおしたストーリーで、舞台の上に再現しようというものです。現在団員総勢約130名が、子供も大人も本番に向けて準備中で、雪舟さんの取り組みに並ぶ本市の文化創造に期待しているところであります。

昨日もお話ししましたが、第3回の雪舟の里総社墨彩画公募展の募集要項を先日発表いたしました。審査委員長は前東京芸術大学学長の平山郁夫先生です。これから募集をかけて、来年の夏に審査、発表を行い、秋に入賞作品展を開催する予定です。

他にも全国共通の様々な課題がありますが、以上を主なものとしてご報告させていただきます。全国的に財政状況が苦しい中、地方分権の時代を迎え、地方の役割・自立が非常に大きなポイントとなります。私たちのまちには歴史のつながりがございます。歴史のつながりこそ地方の強み。このことを大切に自分の町の魅力を創り出していきたい、そんな風に思っています。(拍手)

進行：益田市長・田中八洲男

岩佐助役さんどうもありがとうございました。それでは山口市の佐内市長代理の原助役さんよろしく申し上げます。

山口市助役・原昌克

昨日来、益田市長さんをはじめ、皆様には大変お世話になっております。それでは、山口市の施策展開でございますが、本市におきましては、第4次山口市総合計画に基づきまして、計画的かつ着実に市政をすすめてまいったところでございますが、現在、次の第5

次総合計画の策定に着手しておりまして、平成12年度からの実施に向けて新たな施策等の絞り込みを行っているところでございます。

それでは、最近本市が積極的に取り組んでおります施策等についてご説明したいと思っております。

まず最初に、本市における地域固有の自然や文化を生かしたまちづくりの取り組みの一つとして、五百年の歴史を持つ大内文化のまちづくりの研究がございまして、これは、市議員と一般市民との協同組織「大内文化まちづくり研究会」により進めてまいりまして、一年半の研究期間の末、「一千年の西の京」というタイトルの報告書をまとめたところでございます。

テーマは、「大内氏の時代から今に五百年、そして未来に五百年」とし、「ひとづくりと誇りの持てるまちづくり」、「活力のあるまちの再生」、「歴史を語り継ぐ拠点の整備」の三つをまちづくりの柱としております。大内文化は、日本を代表する京文化と、対明、対鮮貿易を通して移入された朝鮮・中国の大陸文化、ザビエルのもたらしたスペインを中心とした西洋文化が見事に融合した、他に壘を見ない山口独自の文化を生み出し、現在まで五百年もの年月が経過したところでございます。その過去から受け継いだ歴史、文化、自然などの美しく大事なものを子どもたちへ、そしてこれから先の五百年へ引き継ぎ、生かしていくことが、現代に生きる私たち市民に課せられた最大の責務であり、全市民が誇りを持って住めるまちづくりを考えていかなければならない、というのがこの報告書の趣旨でございます。

本市といたしましても、この趣旨に沿いまして、大内文化のまちづくりを積極的に進めてまいりたいと考えているところでございます。

次に、本市の新都心地区であります中園町一帯の29haに、情報・業務・文化の調和したまちづくり推進するため、(仮称)文化交流プラザや市立図書館の建設並びに中央公園の整備を計画しているところでございます。(仮称)文化交流プラザは、世界にも先駆けたアートセンターとして、コンピューターなどの最先端メディアを駆使したメディアアートの体験・研究や、幅広いジャンルの芸術活動を支援するための施設として整備する計画となっております。また市立図書館では、本市独自の歴史・文化・自然などに関する書籍や、プラザとの連携で電子図書館や学習情報コーナーなどを整備する予定としております。中央公園についても、4haという広大な土地を利用して、プラザと連携したイベント広場など、市民の憩いの場としての整備を行うこととしております。またこの敷地内には、第三セクターであります(株)山口ケーブルビジョンの新社屋の建設が先月着工されたところでございまして、今後、NHK山口放送局の新社屋や情報関連産業の業務ビルなどの整備が予定されているところでございます。

最後になりますが、昨日の近況報告でもご説明申し上げましたが、2年後の平成13年の7月14日から9月30日までの79日間、山口市の隣の阿知須町の干拓地におきまして、「ジャパンエキスポ2001

山口きらら博」が開催される予定となっております。「いのち燦めく未来へ」をテーマに、入場者は200万人以上を見込んでおりまして、山口県の地域振興を目的とした、県民総参加のイベントとなるものと確信しているところでございます。また、本市といたしましても、単独パビリオンを出展する予定としておりまして、現在、その基本計画を策定しているところでございます。従いまして、この単独パビリオンを最大限活用して、本市の魅力を全国に情報発信し、また開催地が本市の隣接町ということもあって、来場者を本市へ誘導することによって、本市の経済の活性化とイメージアップを図っていきたいと考えているところでございます。なお、この山口きらら博の開催期間中に、次回のサミットを本市においてお引き受けさせていただければと考えておりますので、その際は、各市町の皆様に、是非お越しいただきますよう御案内申し上げます次第でございます。以上で本市の施策展開についての説明を終わらせていただきます。

また、これは佐内市長より、皆さんによく宣伝してこい、よいうことで説明させていただきますけれども、きらら博が開催されます2001年の10月と11月に、イギリスのエディンバラというところにおきまして、「西洋における雪舟：エディンバラ2001年」という企画の展覧会が開催される運びとなっております。これはそもそも、本市にイッカ、アルファベットでいうと、Y I C Aですが、これは山口現代芸術研究所というところの略称でございまして、そこから佐内市長の方にお話がありまして、この場をお借りしまして、皆さんにご披露申し上げているところでございます。そして、このY I C A（イッカ）を中心とした、展覧会に向けての委員会が山口で設置されまして、またエディンバラでも専門グループがつくられたそうで、今後、共同して、展覧会に向けて企画・検討していくこととなっております。内容につきましてしは、展覧会の中では雪舟の作品や20世紀を代表する芸術家の作品の展示を行ったり、山口とエディンバラの共同でカタログを制作するほか、講演会やシンポジウムも企画されておるようでございます。つきましては、雪舟サミットの皆さんとともに、この展覧会に参加できれば、と考えておりますが、先ほども申し上げましたとおり、佐内市長よりぜひこれを宣伝してこい、といことでご紹介かたがたどうぞよろしく願い申し上げます。以上でございます。ありがとうございました。（拍手）
進行：益田市長・田中八洲男

原助役さんどうもありがとうございました。それでは、芳井町の佐藤町長さんよろしくお願ひします。

芳井町長・佐藤孝治

おはようございます。今日は、益田市長さんから十分な時間をいただきました。しっかり話せということでありますので、先ほど総務部長さんから1時過ぎまでの日程の説明もありましたが、少しお許しをいただいて、話をさせていただきます。

実は、昨日私どもの担当者の方から、町長サミット会議ではこれこれを話してくれということで原稿をもらいまして、いいことがたくさん書いてあるんですけども、ちょっとこれは置かせていただきまして、私の思っていることを話させていただきます。

私ども芳井町は、昭和29年に1町3村が合併をいたしまして現在に至っているわけですが、明治地区というところがございまして、標高が400メートルから450メートルある高地ということで、水に非常に困っているところでした。ここに畑換事業でダムを53億円で建設をいたしました。そして、ここで軟弱野菜を作って県内外に送るということをしています。昨日お話をさせていただきました、日本一おいしくて大腸がん非常に効果の高いゴンボウもここで栽培しているわけですし、今日ここにおいでの皆様にも是非この明治のゴンボウを食べて元気になっていただきたいと思います。

また、私ども芳井町も非常に高齢化過疎化が進んでいます。合併のときには12,356人でした人口が、現在では6,400人ほどになっていまして、高齢化率は33%近くになっています。ですから、お年寄りに親かな町でなければならぬと考えています。お年寄りが多いということは、障害を持った方も多いということですし、町の会社福祉協議会の機能強化を図ったり、リハビリ施設も作ったりしています。そして、無料貸し出しのベッドでありますとか、歩行器でありますとか、マットでありますとかいろいろ用意をいたしまして、これを活用していただき元気で長生きをしていただきたいと考えているところでございます。

それから過疎対策でございますけれども、これまでのこの会議の中でもご報告いたしておるところですが、芳井町では「生き生き町づくり条例」を制定いたしまして、一生懸命頑張っているところです。また、若い人たちに芳井町に住んでもらって、総社市や井原市或いは広島県の福山市に通勤をしてもらおうということで、町営住宅の建設や分譲地の造成と町有住宅の建設も行っています。

しかし、通勤をするにも道路が悪いということで、国道と県道があるわけですが、これを何とか道を良くしようということで、まずは岡山県をお願いに行ったところ、岡山県は非常に財政事情が悪いということで、なかなかよい返事がもらえなかったのですが、広島県へ行きますと岡山県ほど財政状況が悪くないのでしょ、すぐに広島県部分はやりましようということになりまして、これは非常にうれしいことでした。そして、この道路は広島県が26%、岡山県が64%でやるということになって、本当によかったなあ実感しているところです。

それから、老朽ため池の改修も行っております。3億円の事業費でやっているわけですが、これだけではとても全部済むということになりません。これも一生懸命陳情を行いまして、国会議員の先生からも、最初はこれで始めて、後は増えていくからというような激励をいただいているところです。

さて、先ほど道路の改良の話をしていただきましたが、芳井町を国道313号線が通っているんですが、これが一番交通量が多い所で、そのバイパスができたんですが、今度は道がよくなって交通事故が増えるという結果になっています。ちょうどこちらへ伺う前まで、秋の全国交通安全が行われました。この期間中の交通事故は、岡山県内では少なか

ったということですが、芳井町では1件交通事故がありました。この運動期間中は、関係者の皆さんが毎日街頭に立って交通安全を呼びかけています。せっかく道路が良くなって便利になっても、交通事故が増えるというのは非常に残念なことで、なんとか少しでも事故を減らしたいと考えているところであります。それから、広域農道をなんとかお隣の井原市までつなぐといことで現在運動を行っているところですが、この予算確保を何とかしなければと考えているところですが、山口県や大分県の方ではどのような仕組みでこの広域農道の予算が組み立てられているのか、今後は是非参考にさせていただきたいと考えているところです。

また少し話が長くなりまして、そろそろストップがかかりそうな時間になりました。先ほど今日の日程のご案内がございましたが、その途中で益田市の道路もしっかり見せていただきたいと思います。

最後に、昨夜は素晴らしいレセプションで歓迎をいただき、私たちも大変楽しく過ごさせていただきましたことに対しましてお礼を申し上げまして、終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

進行：益田市長・田中八洲男

佐藤町長さんどうもありがとうございました。

最後に、私のほうから益田市における施策展開ということで少しお話をさせていただきます。プログラムの中で「やすらぎとゆたかさのまちづくり」の主要事業としてかかげております快適で便利な都市基盤の整備と産業基盤の整備につきましては、引き続き主要な施策として位置付けているわけですが、一般国道「益田道路」につきましては、お陰様をもちまして用地確保のための詳細な設計を始めている状況でありますし、地域高規格道路「石見空港道路」に関しましては、既に工事を着手をしていただいているという状況でありまして、これらは自動車専用道路と空港を利用した都市交通の整備により、空港と周辺市町村あるいは高速道路網との接続の利便性を高めようとするものです。また、一方では企業誘致につきましても、空港の機能を生かした工業団地としての臨空ファクトリーパークへの誘致を、大阪事務所を拠点といたしまして、島根県とも緊密な連携を執りながら雇用の場の創出による定住促進ということからも推進を図っているところです。しかしながらご存知のような経済情勢であり非常に困難なこともあるわけですが、業績の上がっている業界、企業などを調査しながら引き続き誘致に努めているところでございます。

安心して暮らせる保健・医療・福祉のまちづくりということに関しましては、島根県立の養護学校が私どもの横田地区というところに建設が決まり、現在工事をされているところですが、これに併せまして市立の障害者福祉センターと授産施設を併設することといたしまして、現在工事を進めているところでございます。このことによりまして、ここに一つの福祉ゾーンという、利用していただく人にとっての利便性に配慮したものを形成し、十分に活用させていただこうとしているところです。また、10月1日からは介護保健の認定

申請の受付が始まっているところでございます。この介護保険制度の実施につきましては、私どもでは既存の1市6町村で構成しています広域市町村圏事務組合の機能を拡充するなかで共同事務の処理を行いつつ、実施するというにいたし準備を進めているところであります。

それからもう1点、これは10月1日からのことですが、所得証明および所得課税証明の自動交付を行うことにいたしております。本市では、住民票の写し及び印鑑登録証明書の自動交付機による交付を、窓口の混雑緩和と手続きの簡素化による市民サービスの向上策の一環として、平成6年から行ってきたところです。磁気テープのついたカードに暗唱番号を記憶させ完全自動化されたシステムで、益田・シティズン・サービス・ステーションシステムの頭文字を取りまして、マックスシステムと呼んでいます。このカードさえあれば申請書等を記入することもなく、待ち時間もほんの数秒で証明等の交付を受けられるということで、現在1台を設置して運用をしているものです。平成10年度の住民票の写しと印鑑登録証明のこのマックスシステムによります交付件数は11,659件となっていて、全交付件数の20%程度となってきたところです。同じく平成10年度の所得証明書の発行件数が、8,848件となっていますので、今後のこのシステムのさらなる活用が見込まれているところでありますし、今後とも可能なものから順次このシステムの活用による証明等の交付の種類を増加させ、サービスの向上に努めることといたしています。

このほかにも、土地区画整理、農業基盤整理と集落排水事業、駅前再開発事業などの土地利用に関する課題や、環境問題とゴミの処理問題等様々な行政課題に対する対応等があるわけですが、以上のとおり報告をさせていただきますと終わらせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

進行：益田市長・田中八洲男

以上のとおり報告をいただきました。これで施策展開等について報告を終えさせていただきます。続きまして「新たな提案」に移らせていただきます。

「新たな提案」につきましては、先に事務局会議において基本的な協議があったようですので、事務局の報告をまずお聞きいただいて、ご論議をお願いします。

それでは、事務局案を提示してください。

益田市総務部長・中村達之

それでは、先に開催しました事務局会議の中での新たな提案について報告します。

まず第1に雪舟サミット及び構成自治体の紹介パンフレットの作成についてであります。このことにつきましては、前回の総社サミットで総社市さんから共同事業についてのご提案をいただき採択されましたので、その後事務局においてその具現化を図るものとして、共同パンフレットを作成するというところでまとめ、現在取材活動をはじめているところであります。今年の12月を目途に作成をしようとするものです。

次に、第2といたしまして、パソコンネットワークにおきます各市町のホームページのリンクについてであります。ホームページにつきましては各市町さんとも開設済みあるいは開設準備中ということでございまして、各市町のホームページに他の構成自治体の名前のボタンを表示し、名前をクリックすることで自動的にその市または町のホームページにアクセスすることができ、簡単に他市町のホームページを見ることが出来るようにしようとするものです。

第3といたしましては、地方分権時代の施策展開という中で、新たな方向性を模索しあらい職員の資質向上という観点から、今後職員の相互派遣研修の可能性を探ってみてはどうだろうかということです。無論、それぞれの自治体には職員の派遣交流の対応につきましては、異なる部分や問題点も多々あるかと考えますので、そこらのことも含めて調査研究をしてみてもどうかということです。

以上のとおりです。

進行：益田市長・田中八洲男

ただいま事務局から報告がありましたが、何かご意見はございませんでしょうか。

ないようでございますので、ただいまの3点につきましては今後それぞれを進めていくということでご了解をいただきたいと思っております。

ないようでございますので、次に進ませていただきます。次は次回開催地についてでございます。これまでの順番でまいりますと次は山口市さんということになるわけですが、この年山口市さんでは県を挙げて「きらら博」を開催され、これにあわせて雪舟サミットを開催していただけるということでありますから、他の市町の皆さんご意義はございませんでしょうか。

全市町

意義なし。

進行：益田市長・田中八洲男

それでは、次回開催地につきましては山口市さんをお願いすることにいたします。原助役さんよろしくお願ひいたします。サミット旗の引き継ぎは次のサミット宣言の後、行わせていただきます。

続きまして、来るべく21世紀に向けてサミット構成市町とそれぞれの住民の交流がますます深まり、さらに強固な絆で結ばれますことを祈念いたしまして、サミット宣言を行いたいと思っております。

「サミット宣言。私どもは、雪舟ゆかりの自治体として相集い、それぞれのまちの雪舟等楊の業績を顕彰しつつ、互いのまちづくりについて意見交換を行い、相互理解と友好交流を深めて来ました。

このことは、地域文化の向上と、地域の活性化にとって非常に有意義なものであると確信してまいります。

今回、更なる交流の促進を図るため、第7回サミット会議での宣言を踏まえ、次のことについて具体的な事業の展開に取り組むこととします。

1 情報の交換とともに情報の共有化を図り、雪舟サミット自治体間の交流を広く紹介することに積極的に努める。

1 実施可能な共同事業について検討しその実現に努める。

1 広域参加が可能な事業への積極的な呼びかけを行う。

1 相互に効果の期待できる職員の交流について調査研究を行う。

旅を好み旅を通じて人とのふれあいを大事にした雪舟等楊の志を現代に引き継ぎ、今後この雪舟サミット自治体交流を発展させていくことを約し、ここに宣言します。平成11年10月3日 第8回雪舟サミット参加自治体交流会議」

以上でございます。皆様いかがでございましょうか。拍手をもちましてただいまの宣言の採択にご賛同いただいたものとさせていただきますよろしゅうございますでしょうか。

(全員拍手)

どうもありがとうございました。

それでは、以上でこの会議の進行を司会者へ返すことといたします。

司会(益田市総務部長・中村達之)

皆様、どうもご苦勞様でした。ただいま次回開催地が山口市さんに決まりましたので、益田市から山口市へサミット旗の引き継ぎをさせていただきます。

(益田市から山口市へサミット旗の引き継ぎ)

それでは、山口市の原助役さん、次回開催地ということで一言ごあいさつをお願いします。

山口市助役・原昌克

ただいま、サミット旗の引継ぎをいたしました。次回は、2001年に、山口市でサミット会議を開催させていただきます。2001年には、「ジャパンエキスポ2001山口きらら博」が隣町の阿知須町で開催されます。この「きらら博」に併せてサミットを開催いたします予定にしております。雪舟サミットを構成される各市町から、多くの皆様のご参加をお待ちいたしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

司会(益田市総務部長・中村達之)

原助役さん、どうもありがとうございました。以上でサミット会議を終了させていただきます。皆様大変ご苦勞様でした。会場の皆さんも長時間お付き合いいただきまして、大変ありがとうございました。